

令和6年度第2回蒲郡市まちづくり DX 推進コンソーシアム 会議録(要旨)

開催日時	令和6年3月24日(月)午後2時から午後4時まで		
開催場所	蒲郡市役所3階 303会議室		
出席者	【委員】		
	所属		氏名
	名古屋大学		遠藤 守
	蒲郡市		大原 義文
	中部電力パワーグリッド株式会社		今泉 行晴
	みどり保育園		河合 美鈴
	NTT 西日本		牧野 幸弘
	まちづくりセンター		金子 哲三
	蒲郡市観光協会		高井 知明
	形原1区		天野 忠則
	愛知工科大学		中谷 淳
	愛知大学		蔣 湧
	【事務局】		
	所属		役職 氏名
	企画部 デジタル行政推進課		課長 小島 弘明
	企画部 デジタル行政推進課		係長 小出 敦子
	企画部 デジタル行政推進課		山本 拓也
	危機管理課		主幹 西浦 淳子
	市民生活部 交通防犯課		課長 磯貝 友宏
	子ども健康部 子育て支援課		課長 高橋 晃
	産業振興部 観光まちづくり課		課長 鈴木 直美
会議内容	1 開会		
	2 報告		
資料	(1) 令和6年度地域のDX推進に係る取組みについて		
	ア 先行取組4分野の課題抽出のためのワークショップ実施報告について		
資料	イ 行政のDXについて		
	(2) 今後の取組について		
資料	ア 先行取組4分野に係る今後の取組ロードマップについて		
	イ 健康デジタルプラットフォームについて		
資料	ウ 新しい地方経済・生活環境創生交付金について		
	3 質疑応答		
資料	4 閉会		
	資料1 蒲郡市まちづくりDX推進コンソーシアム名簿		
資料	資料2 蒲郡市まちづくりDX推進コンソーシアム設置要綱		
	資料3 蒲郡市まちづくりDX推進コンソーシアム会議資料		
資料	資料4 蒲郡市まちづくりDX基本方針		

会議要旨	1 開会 委員委嘱について 欠席委員の連絡 2 報告 (1) 令和 6 年度地域の DX 推進に係る取組みについて ア 先行取組4分野の課題抽出のためのワークショップ実施報告について イ 行政の DX について (2) 今後の取組について ア 先行取組4分野に係る今後の取組ロードマップについて イ 健康デジタルプラットフォームについて ウ 新しい地方経済・生活環境創生交付金について ※資料に基づき事務局から説明[資料3]、委員(NTT)からワークショップ実施報告について補足説明 3 質疑応答 【行政の DX について】 ● 【質問】手続のオンライン化の進捗状況について、事務局としてオンライン化が進んでいるイメージはあるか。 ⇒【事務局】一定の進捗はあったが、計画の終期である令和7年度までに未実施分の達成は厳しい状況にあると感じている。 ● 【質問】蒲郡市のオンライン化が進んでいるという認識を市民がお持ちなのか。またオンライン化済の手続は市民の方に関わるものがオンライン化されているのか。 ⇒【事務局】令和6年10月市民意識調査の速報値によると、オンライン申請がしたい手続がオンライン化されていないと感じている方は、4.7%ですが、オンライン申請の利用方法がわからないという方は 50.3%、申請は窓口でしたいという方が 36.1%となっている。その他、オンラインでなくても不便を感じていないという方は34%となっている。以上からオンライン化できているものも市民に浸透していないと感じるところではある。 ● 【質問】手続のオンライン化の費用対効果はどのような状況か。 ⇒【事務局】具体的な検証はできていないが、各分野において直接的、間接的な効果があると考えている。 ● 【質問】オンライン化の分野別の進捗状況は把握しているか。 ⇒【事務局】分野別の進捗状況は把握していないが、各課の進捗については把握しているため、後日報告させていただく。 【先行取組4分野に係る今後の取組ロードマップについて】 ● 【意見】J-LIS が提供している被災者支援システムは堅牢に作られていて、便利なサービスだと思う。 ● 【意見】全庁的な課題の洗い出しをすると、世の中的に動きがあるシステム標準化、フロントヤード改革との兼ね合いの問題もあり、洗い出すとキリがない。システムに業務を合わせるのは好きではない
------	--

	が、この分野だけで使えるシステムというものを作ってしまったのは、最新でありながら、他では使えないガラパゴス状態になってしまう。能登地震があったときも東日本大震災を経験した職員が同じ被災者支援システムを使っているため作業がスムーズになったと聞いている。ある程度は業務をシステムに合わせていくことも必要とも思う。 ● 【意見】オムツのサブスクは、昨年の8月にアンケートを取って、保護者の依頼と選択肢の幅を広げるために、当園ではオムツのサブスクを始めた。アンケートでは、利用したい、しないの割合は半々であったが、0～1歳の保護者の方はほぼ100%利用していた。2歳児以上になると利用は三分の二となった。 ● 【意見】オムツのサブスクは、利用者毎に使用頻度が変わると損得が出てくるが、サブスクの良いところは荷物が減るなど保護者負担が軽減するメリットがあると感じる。一方で現場では導入した場合の費用負担の部分やオムツメーカーが特定されるなど、問題点もあり不安視する声も聞いている。 ● 【意見】お布団のサブスクは、布団が大きな荷物のため保護者が持ち込んでいる負担を考えるとメリットも大きいですが、他人が洗ったものを使うことに抵抗感があるなど、衛生面を考えると敬遠する保護者も多いと聞く。ただし、サービスとしてあれば利用者は増えると思う。 ● 【意見】子育てアプリは、増やすのではなく一つのアプリで情報共有・連携ができるようにしてほしい。サービス間の連携ができるとさらに良い。 ● 【意見】コミュニティバスは10月には拾石地域でも走るようになり、ドーナツ型で完成する。毎日走っているバスの中では、コミュニティができてきている。 ● 【意見】免許返納者用の電動4輪自転車の提供などもいいと思うが、蒲郡は4輪自転車走行に必要な整備が整っていないように感じる。 ● 【意見】自転車以外のスローモビリティを導入した場合は収益性に欠けると感じる。 ● 【意見】観光メタバースは刈谷市がZ世代向けにメタバースを訪れる仕掛けをしていると聞く。蒲郡市においても生命の海科学館でメタバースの実証実験を行うなどノウハウが蓄積されている。関係人口を増やせるいい機会になると思う。 4 閉会 (1) 事務局から事務連絡
--	--